

平成30年度 第4回大和市環境審議会 議事録

I. 開催日時 平成31年1月28日(月) 午後2時～午後4時10分

II. 開催場所 大和市役所本庁舎5階 全員協議会室

III. 出席状況 委員 10人

池田勝彦委員(会長)、高橋政勝委員(職務代理)、天野洋一委員、
小川幸一委員、斎藤久美子委員、瀧本隆之委員、羽染久委員、
藤井敏昭委員、山口詠子委員、矢板千英子委員
事務局：環境農政部長ほか6人

IV. 公開・非公開の状況

公開 非公開 一部非公開

V. 審議又は検討の経過及び結果

A. 会議次第

- 1 諮問
- 2 市長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 議題
(1) 大和市緑の基本計画の改定について
- 5 その他

B. 資料

- ・資料1 大和市緑の基本計画について
- ・資料2 大和市緑の基本計画(案)

C. 審議内容など

- ・大和市緑の基本計画の改定に係る諮問が審議会に対して行われ、その後、大和市緑の基本計画(案)を中心に説明が行われ、審議を行った。

(※資料等は複数ページに渡るため掲載しておりませんが、市役所環境総務課で閲覧できますので、事前に連絡のうえお越してください。)

(1) 大和市緑の基本計画の改定に関する質疑・意見等

委員 資料2・P86 都市公園整備目標の目標値がわかりにくい。今後、どうしていきたいのかを数値で示したほうが良いと思う。他市と比較して公園の面積が少ないということだが、何か対策は考えているのか。

事務局 都市公園法では、1人当たりの都市公園面積は10㎡とされている。大和市としての最終目標値を6.9㎡としているが、現在は県内でも最下位なため、面積を増やす努力をしていきたいと考えている。

委員 資料2・P71(3)防災機能中「行為の制限の解除」とあるが、これは生産緑地のことか。

事務局 そのとおり。

委員 この計画の柱は何なのか。基本方針には前計画を踏襲するとあり、前計画の点検及び課題の整理を行っているが、何が見直されているのか。

事務局 法改正にかかわることは見直し、前計画とも比較しながら、今後も緑を減少させることなく着実に進めていくということの文言の整理をしている。

委員 前計画と比較しながら読み込まなければならないのではわかりにくい。

委員 前計画との比較といっても、社会情勢なども変化しており、比較することは難しいと思う。ここまで進めたいというような強気の計画にしてもよいのではないか。

事務局 公園の整備面積は着実に増えているが、緑については、保全が主であることから、緑を増やすという記載は難しい。

委員 新たな植林、植樹をしなければ木も古くなるので緑は減っていく。増やす戦略ということまで記載し、それをこの計画の柱とすることはできないのか。

事務局 今回の計画では、農地も緑に含み新たな視点となっている。農地は、都市農業振興基本計画、公園整備は、公園施設長寿命化計画と整合を図り進めているため、これ以上の記載は難しい。

委員 資料2・P63の市民アンケートでは、緑への関心、量、満足度の結果を総合すると、全体的に緑に対する興味がなくなってきているような結果で、開発の優先が増となっていることもあり、前計画の基本方針を踏襲することはよいことだと思う。

事務局 前回の結果と比較すると開発優先の意見が多いと感じるかもしれないが、今回の結果では、88%の市民が緑に関心があるという結果が出ているので、プラスで捉えている。

委員 ぼーる遊びもできる公園があるが、どのような公園なのか。

事務局 従来、公園内で禁止事項にしてきたボールを使った遊びを禁止するのではなく、防球ネットを設置して、ボールを使うことを可能とした公園を増やしている。ネットの高さは、4mから6m程度である。

委員 やまと公園内にネットが設置されており、多くの方が利用しているので、いい設備だと感じている。

委員 10年前に計画を改定した時とは社会情勢も変化しているなど、基本理念の考え方が根本的に違うと思う。求められているのは量的なものではなく質の変化であり、無理に数字を伸ばす必要はないのではないか。

事務局 質の変化というのは、今後の課題と受け止めている。

委員 10年間の計画だが、5年で一部改定することも可能だと思う。現状をもう少し把握し、書き込んでもよいのではないかと感じる。

委員 基本方針は現状をもう少し解析し、どのような戦略にするのか再度検討していただきたい。緑の基本計画は、資料2・P122. 123では大和市を5地区に割り振っているが、総合計画と整合させているのか。

事務局 5地区については、都市計画マスタープランでの地域割りである。ここでは、都市計画マスタープランの地域ごとの記載をしているが、総合計画との整合性は図っている。

委員 資料2・P75に「緑と花のひとづくり」とある。このような施策を積極的に進められるような計画をとりいれていただきたい。また、資料2・P47のアンケート結果では、「緑を維持する」「積極的に増やす」を含めると84%にもなるため、緑を増やしてくという姿勢が必要。

委員 資料2・P51、52の農地所有者アンケート結果では、生産緑地制度改正後も引き続き耕作していくという回答が最も多かったが、周辺の地域では、農地が減っている。市として生産緑地所有者から、何か相談を受けるようなことはあるのか。

事務局 市内の生産緑地地区は345箇所ある。みどり公園課として相談を受けたことはないが、アンケートの回収率が45%ということもあり、今後の状況を見届けながら計画を進めていかなければならないと思っている。

委員 アンケート回答数が35票なので、この結果がすべてと考えて進めることには無理があると思う。

事務局 この結果のみで計画の方向性を定めることはしない。

委員 生産緑地は一度失ったら二度と戻らない。所有者の意向もあると思うが、みんなで緑を守ってもいいのではないかと思う。

委員 各章のページ数のアンバランスが気になった。第8章までであるので、まとめられる章はまとめて、バランスをとってはどうか。

委員 資料2・P13に地形とあるが、図がないのでわかりにくい。大和市は平坦な地形であるといわれているがそうではないと思う。空白部分に地形図を表示してもいいのでは。

事務局 検討する。

委員 資料2・P49は全体の回答数540票に対し90票と少なく感じるが、複数回答可の質問項目なのか。

事務局 そのとおり。

委員 すばらしい緑地が多くある中、あまりにも寂しい結果と感じた。

委員 大和市は最近、図書館を充実している。市としての方針だと思うが、緑を増やすことについても何か目指している方向性があればいいのだが。

事務局 街づくりの中で、公園への花植えや公共施設での緑の保全などは地道に進めている。

委員 資料2・P52・54にアンケート結果がグラフで表示されているが、グラフの横軸の人数が統一されていないので、バランスが悪く感じる。

事務局 わかりやすくなるよう検討する。

委員 資料2・P43 みず・みどり率の地区に「厚木航空基地」が含まれているが、大和市の緑を考える中で、これだけ広大な面積を市の緑地として含めることに違和感がある。

事務局 大和市全体が都市計画区域であり、その中に厚木航空基地も含まれているため、施策としては何もできないが芝生部分などは緑として捉え、緑被率の算定をしている。

委員 追加資料の中で、「良好な低層住宅地」とあるが、どのようなことを表現しているのか。

事務局 境川・引地川の川沿いには、主に2階建を中心とした住宅地があり、自然豊かな環境も守られているということを「良好な低層住宅地」と表現している。

委員 緑がなくなるのは仕方がないという記載はできるだけ避け、みんなで緑を守り、残していくという表現ができればよいと感じている。

- ・審議終了後、パブリックコメントの実施時期と次回開催予定について説明した。

<閉会>